

サウナ付き宿泊施設「さなざわ出テラス」
中島あづささんに聞く

チームビルディングを高める 研修施設として選ばれる理由

約4年にわたったコロナ禍によって働き方が変化しました。自宅でのリモートワークが推奨され、会議や研修などもオンラインに切り替わりました。しかし、リモートワークには多くのメリットがある一方、直接的なコミュニケーションの機会は減少し、組織のチーム力が弱まるという課題も見られました。そのため、組織の交流の機会を創出し、再びチーム力を高めるため、合宿型の社員研修が見直されています。最近のサウナブームで、サウナ付き施設が人気ですが、企業研修施設としてもニーズが高い理由をヴィレッジインクの中島あづささんにうかがいました。

群馬県みなかみ町の魅力の一つは、何といっても首都圏からのアクセスの良さです。東京から上越新幹線で約1時間、車の場合は高速道路を使えば1時間半ほどです。ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）として認められた雄大な自然があり、夏場は利根川を利用したカヌーやラフティング、冬になればスキーなどのアクティビティが充実しています。

また、町をあげて移住者を増やす取り組みをしています。移住促進だけでなく、長期滞在し余暇を楽しみながら働くワーケー

ションの利用にも力を入れ、さまざまな補助金の制度も整えました。例えば、新幹線通勤費（3年間、月最大3万円）の補助、空き家バンクに登録の物件を活用した場合の補助、移住やワーケーション、テレワークを目的とした施設を利用する方へのレンタカーの補助などです（1回当たりの視察またはテレワーク施設の利用につき、1日3,000円を最大3日間の補助）。立地もありますが、こうした取組みの結果として、コロナ禍を経て若い世代の移住者が増加しています。

さなざわ出
テラス

住所：群馬県利根郡みなかみ町月夜野2537-2

アクセス：JR上越新幹線上毛高原駅から車で5分、水上ICから車で15分

■温泉ワークプラン（温泉入り放題+ドリンク2杯）1,500円

■日帰り温泉 大人（中学生以上）600円、小人（3歳以上～小学生以下）330円

■日帰りサウナ 大人 2時間2名まで6,000円、3名以上2,500円／人、7名以上1,500円／人

※その他、貸切プランや宿泊などの料金は日程・料理によって異なります。詳細はHPでご確認ください。

HP：https://sanazawa.jp

その町内にある真沢温泉に、2021年に開業した日帰り・宿泊施設「さなざわ出テラス」は、一棟貸しもできる温泉施設で、企業の利用を通して、町に町外からの人を呼び込みます。施設の目玉は、国産の木材だけを使用して作られた樽型サウナルームです。

町と協力して

さなざわ出テラスは、町の方針と足並みを揃え、移住希望者、東京からのワーケーション利用者をターゲットに開業しました。以前あった施設は、みなかみ18湯の真沢温泉唯一の温泉旅館でしたが、コロナの影響で指定管理を任されていた会社が撤退、休館に追い込まれました。このままでは「みなかみ18湯」(*)が成立しない、どうにか復活させたいという町ぐるみの想いから、ヴィレッジインクという会社が後任することになりました。

「町から委託を受けて施設をリノベーションしました。現在は、日帰り入浴施設として地元の方にご利用いただきつつ、ニーズが高いのは、移住された方のリモートワーク場所としてのご利用と企業研修や合宿です」と話すのは、施設のスタッフである中島さんです。

株式会社ヴィレッジインクは、2020年11月から同町の土合駅を利用した「DOAI VILLAGE」（どあい びれっじ）というグランピング型の宿泊施設の運営を始めており、町からの信頼も実績もありました。

※一軒宿の秘湯から温泉街まで、水上温泉郷9湯、猿ヶ京三国温泉郷5湯、月夜野・上牧温泉郷4湯の計18湯の総称。泉質もいろいろで、18通りの湯浴みができる。

「土合駅の下りホームは、駅舎から地下へ338m（462段の階段）もぐらなければならず、“日本一のモグラ駅”として知られています。その無人駅を、野外サウナ付き宿泊施設に改装しようと提案したのがヴィレッジインクでした。そのころの私は、土合駅に近い実家から前橋にある広告会社に通り、DOAI VILLAGEの開業に向けたPR活動を担当していました。ヴィレッジインクの方としても、本社は静岡県伊豆の会社ですので、地元出身者の採用で地元とうまく付き合いたいという思いがあったようで、お声掛けいただきました」（中島さん）。

こうして、生まれ育った地域にいながら、全国から来られるお客様に対して、町の良さを伝えられる仕事に向き合えると思い、転職を決めました。

現在は社員は4名で、そこにアルバイトの方々を加えて、DOAI VILLAGEとさなざわ出テラスの2つの施設を運営しています。

「DOAI VILLAGEの方は豪雪地帯なので、そこで泊まることを目指してこられる方も多く、冬の宿泊率は高く、たくさんのスタッフが必要です。一方、こちらのさなざわ出テラスは、企業研修で使ってもらうことが多い施設です。企業研修の場合は、当日のオペレーションは一人でも可能ですが、事前に行く、企業との打ち合わせの方に時間をかけるようにしています」

幹事の方とオンライン会議を開き、プロジェクトを使用するか、部屋割



国産の木を使った屋外にあるサウナは、外気浴も気持ちいいと人気。施設の眼下は棚田というロケーション。



左：広々とした30畳のスペース。合宿など大人数の利用時は多目的スペースとしても大活躍。
中：サウナで使う薪はみなかみ町産。
右：カフェ。一棟貸し利用の時は、キッチンとして自由に使える。

をどうするか、料理はどんなものを用意するのか、自分たちで作るなら食材は用意するか、などはもちろん、どういうことを目的にした研修なのかも聞くのだといいます。

「必要であれば、研修中であっても、施設内ワークスペースを使ってテレワークもできることなど、いろいろな使い方を提案できます。こうして、事前に打ち合わせをすれば、お互いに安心して当日を迎えられます」(中島さん)

自然の中で 仕事をするということ

さなざわ^の出テラスの環境は、都会のオフィスとは全く違います。雄大な自然を眺めていると思ってもいなかったようなアイデアまで湧いてくるという方が多いそうです。

「普段働いているところと圧倒的に違うのが、この景色です。棚田を見ながら会議ができる、それも美肌効果が高い温泉に浸かるということで、オン・オフができて喜ばれています。また、一棟貸しなので自由度が高く、使い勝手がいいと定評があります。コロナ禍真っ只中のころは、研修はやるけれども同じ部屋で泊まってはいけないという会社がほとんどで、日帰りで研修を行うところが多かったですね。今は、どんどん研修が社内ですべて許可されるようになって、ご利用の機会が増えてきています」

コロナ禍をきっかけにリモートワークやオンライン会議が増え、社員研修もオンラインで行う会社が多くなりました。しかし、オンラインでは“効率を重視したコミュニケーションになりがち”、“じっくりと考え

議論を深めることができない”、“従業員の性格や個性、精神状態を対面よりも把握しにくく、マネジメントが難しい”などの課題もありました。そこで、組織の一体感を再び強めていくために、合宿型の社員研修の価値が見直されています。

研修先としてここが選ばれる理由は、①上越新幹線の駅から車で5分というアクセスの良さ、②10人以下の少人数でも貸し切りができて気兼ねがない、③地元食材を利用した食事のおいしさ、④チームビルディングを高めるといわれている屋外サウナ施設の存在、です。

「衣食住をともにすると、何ととってもチーム力が高まります。親睦会も深夜まで気兼ねなくできますし、また、一緒に料理をしてチームの結束が高まるという方たちもいらっしゃいます」

サウナでチームビルディングを 高める

特に、屋外にあるサウナはチーム力を高めるのにうってつけだといいます。

「サウナ愛好家の方々が読む雑誌があり、そこにうちの取材記事が載って反響がありました。とある企業の幹部の方々のご利用があったのですが、皆さん、サウナが目当てのようでした。最初に棚田を散策された後、屋外サウナに集合されていました。外気浴スペースでは、棚田や周囲の山々を眺めながら身体や心を“ととのえる”ことができるので、そこで何時間も語り合っているようでした。その後、夜中は外で焚き火をされて。とても静かな環境に身を置いて、自分自身と向き合っておられました。サウ

情報誌『月刊マネジメント倶楽部』についてはこちら→ <https://www.zeiken.co.jp/mgzn/management/>

無断転載を禁じます ©税務研究会

文／平井明日菜、写真／上垣喜寛

ナにはそういう使い方もあるんだと気づかされました」

「サウナ外交」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。フィンランドでは、狭くて暑い空間をともにしながら親交を深めることで、国内外の論争を解決してきた歴史があります。サウナには、新しいひらめきが生まれる、普段とは違う話ができる、人との距離が縮まるという効果があるといわれています。コロナ禍で日本に到来したサウナブーム。社内のチームビルディングはもちろん、社外のビジネスパートナーのおもてなしにも活用できると、一部の企業では社内にサウナを設置したところもあるそうです。

利用が広がる企業研修

ただ、開業当初はというと、リモートワークができて、一棟貸しもできるということが認知されておらず、思い通りにはお客さまに利用していただけなかったそうです。最初の団体利用は、想定外のお客さまで、総勢35名の小学校の少年サッカーチームでした。

「上司と花火も買ってきて、『最初のお客さまだから楽しませよう』って話しました。それからは、うちでやった合宿が楽しかったと、子どもたちが何度もサッカーチームの監督に言ってくれて、もう5回もうちで合宿をしてくれています」

その後は、SNSを利用して、施設の使い方を地道に配信したことが功を奏し、どこからか「人づてで聞いたから」と利用してくださる企業がでてきました。そして、

一度ここでやってみたところ、「使いやすい」と社内で話題になり、他の部署にも紹介してくれてリピーターになってくれるところもありました。

企業研修は月に少なくとも3、4件はあり、年度末は特に多くなります。みなかみ町では、観光は夏と冬、そして秋の紅葉がハイシーズンとなり、その合間の11月は閑散期といえるのですが、そういう時に企業研修がたくさん入ってくれるので、運営側としてはとてもありがたいのだといいます。

貸し切りの予約がない日は、日帰り入浴、リモートワーク施設、カフェとして地元が開かれています。地元の方からは「気軽に温泉に入りやすくなった」という意見をいただいています。

「ここでイベントをやれば、SNSでシェアしてアップしてくれるようになりました。認知されたのだなと感じます。ここは、新幹線の駅からは近いのですが、地域の中心地からは外れている場所で、地元からすると、わざわざ来ないといけない場所です。そんなところに地元の家族連れがお風呂に入りに来てくれて、偶然、他の家族とここで顔をあわせて、「わー、〇〇ちゃん!」と盛り上がっているのを見ると、地域の人が気軽に集えるコミュニティの一つにもなっているなと実感できて嬉しいです」

これからも、地元との関係を大切にしつつ、都会の方たちの心、身体、人間関係が「ととのう」場所としてあり続けたいと笑います。



コワーキング・カフェ利用ができる多目的スペース。大きな囲炉裏を囲んだダイニングテーブルで仕事もできる。